

垂木の住宅

【概要】
 用途 住宅(共同住宅の一戸)
 住戸面積 94.78㎡
 工期 2016年7月~9月
 主要仕上材料 杉垂木材、タモフローリング、杉巾ハギ材



日本の林業が赤字産業になって久しい。戦後植林のおかげで山にはたくさん材がある状況だが、林業が儲かるためには、現状自給率3割の国産材利用を増やすことが必須だ。

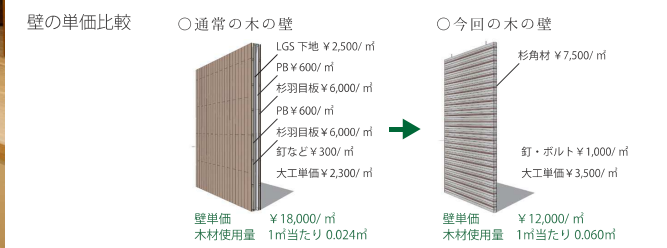
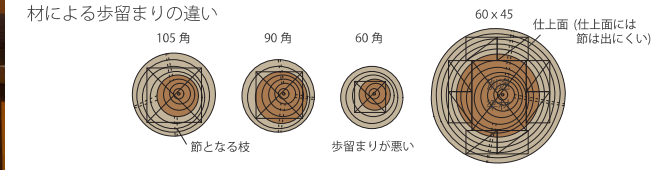
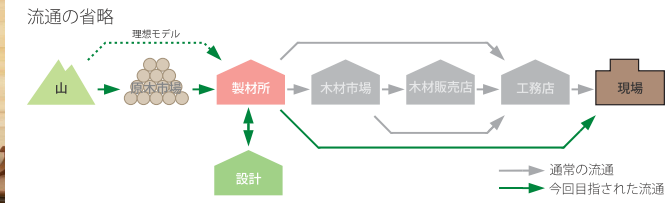
原木価格を上げて山の環境を持続させていくためには、実は CLT や集成材ではなく無垢材を使う必要があるが、これまで無垢材利用を担ってきた新築物件は都心部を中心に激減している。

一方で増えているリノベーション工事においていかに無垢材を使えるか。本プロジェクトは都心部のマンションリノベにおいて、多摩産の杉の無垢材を、コストを抑えつつ大量に使う方法へのチャレンジである。

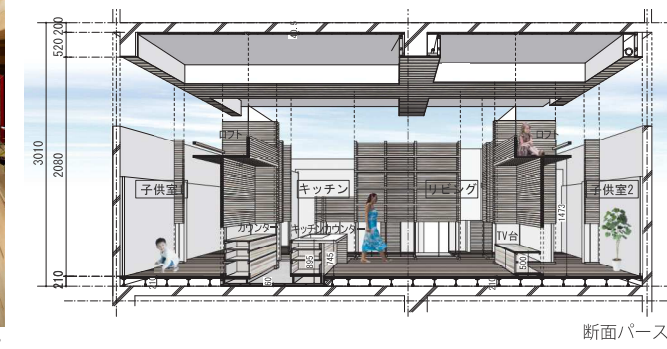
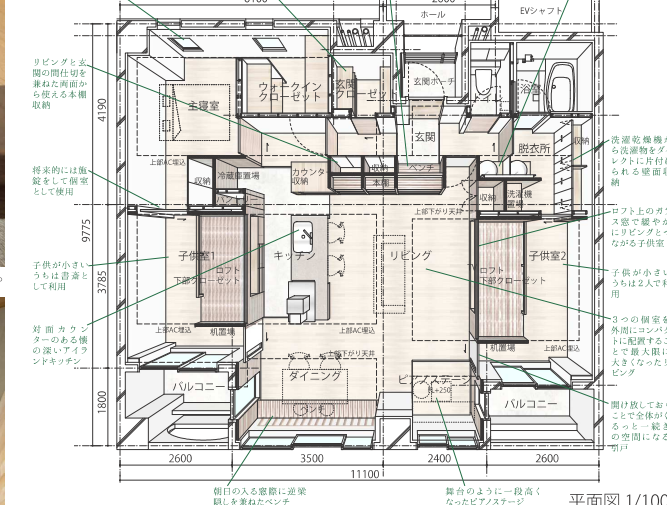
現状の多摩産材に多い材径と歩留まりなどから、間仕切り壁に最適な材として、従来垂木に使われる 60x45 の角材を使う。また、狂いや取縮に対応可能な方法として、これを積み上げて、材が直行する角をうまくつくりながら自立させるマッシュホルツ構法にたどり着いた。LGSで下地を作り羽目板を貼る方法と比較するとコストも2/3で済み、木材使用量も2倍以上になる。

設計者が製材所にダイレクトに発注し、施工方法を簡略化して、熟練した大工でなくても施工可能な、工期の短縮できる汎用性の高い計画としてさらにコストを抑えていく。

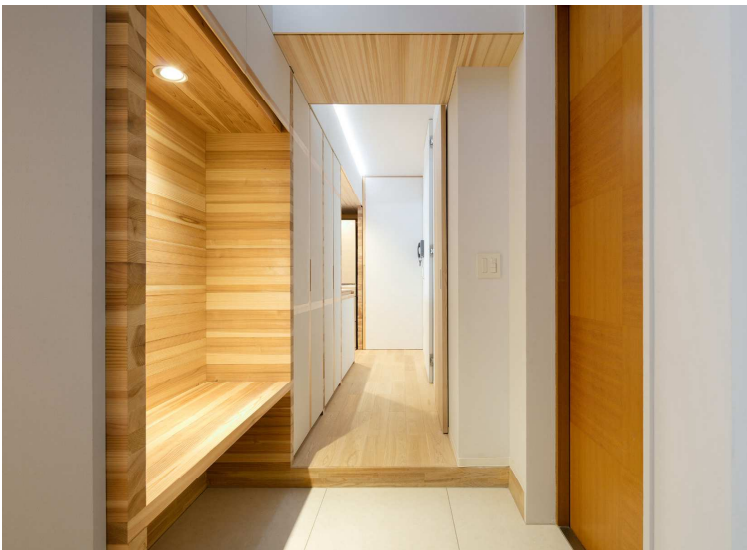
施主の利益を最大化した上で、無垢材を、構造材と仕上げ材の中間のように内装に使う流れをつくること。こうして山にお金を戻し、林業従事者を増やすことで、山の環境を維持していく流れの一端を担えないかと考えている。



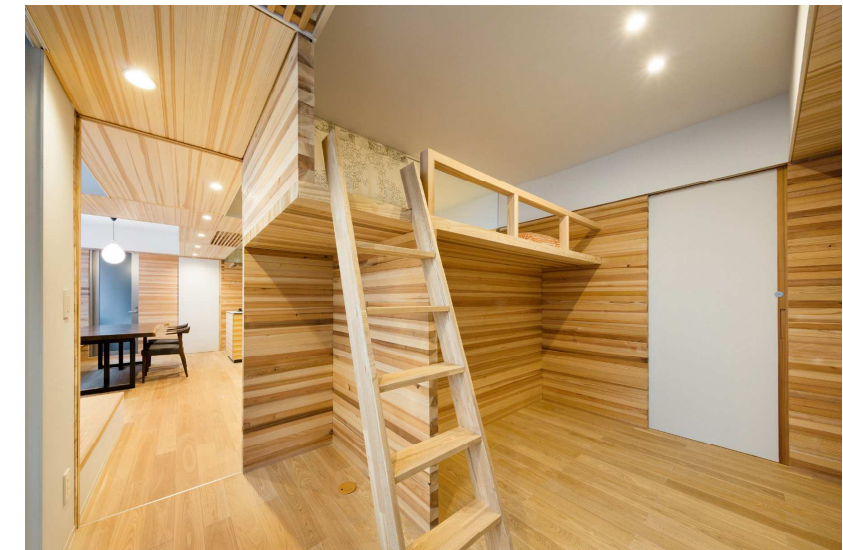
居室は大部分を木製壁に、西側の壁を開けることで安全体の通風を確保。 洗面乾燥機から洗濯物をディスプレイに掛けられる壁面収納。 4人家族の身長差を考慮する3つの洗面台。 収納スペースを最大限に活用できる限り多くベンチを設置。 コンパクトな洗面には手荷物を掛けたり隠すためのベンチを設置。 乾衣物と寝具を掛けることで入浴中も1つの洗面台は使用可能。



キッチンからリビングを見る。テレビ台まわりの壁、本棚は全て垂木材でできており(カウンターは巾ハギ材)、間仕切りも兼ねる大工による現場施工の造作。



玄関、廊下を見通す。ちょっとした物置も兼ねる玄関前のベンチ



子供室のロフト床は約2mの垂木材を床厚60mmの向きで使うことで角の片持ちを持たせている



リビングダイニングキッチン。手前のカウンターで廊下と緩やかに仕切られる